

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.74
防災までにあと何回
訓練できるのだろうか



昨年11月に鳥羽市で県と伊勢市と合同の防災訓練をしました。一般的なプログラムのほか、海を介した人員や物資搬送であったり、医療チームの参画、災害FM局の実践などがいつもの違いでした。もちろんこの機会に各地の町内会でも高台への避難や、炊き出しをしたところもありました。

と毎日が訓練とも言えます。私は以前から「防災を名乗らない防災」、つまり日常生活の中に防災の要素を取り入れる工夫をしたいと思っています。例えば、その最たるものは祭り、イベント、スポーツ大会。みんなで段取りして、役割を決めて手伝いを頼んだり、動員に対して人の流れを想定したり、時間を決めて、準備から後片付けまで、食べることだったり、炊き出し必要数を予想したり、テイクアウトを頭に入れたり、衛生管理に気を付ける必要があります。

そういえば、先日の講演会で講師の先生も「防災は祭りだ」と断言していました。私は心の中で「そのとおり」と快哉を叫びました。講演会后、その先生と再度お話をする機会がありました。先生は、まさに前述のような例に同意していただきました。そして、いつも何やかやとやっているまちは災害に強いまちだと思っております。気が付かな



相差町での炊き出し訓練の様子

南海トラフ地震は明日起こるかもしれないし、生きているうちに来ないかもしれない。それまであと何回、訓練ができるのでしょうか？そう考える

いうちに防災力は確実に高まってくると思っております。

先月、神島で八代神社のお木曳ぎが催行されました。秋のご遷宮に合わせて、20年ぶり、島民の人口の倍の人が島に集まりました。「島が数センチ沈んだ」「吉永小百合さん来島以来」との声もありました。木遣りをする若者がいないので、島外の若者に録音テープ（ではないと思うのですが）を送って練習させたのだそうです。また、今回から女性もお木曳ぎの引き綱を持てるようにルールを変えたのだそうです。ゲーター祭りは今のところ休止していますが、復活の可能性を感じつつ、帰りの船に乗りまします。



八代神社のお木曳ぎの様子

痛い痛い、飛んでけー！



Vol.227
市民課人権・市民交流係
☎1126

「いつまでも泣かないで、男の子でしょ」「女の子らしく、おしとやかにしなさい」「こんな言葉を聞いたり言われたりした経験があるかたも多いのではないのでしょうか。

性別に関して社会に広く浸透している固定観念や先入観、思い込みのことを「ジェンダー・ステレオタイプ」といいます。

「男性」「女性」それぞれに対して人々が共有するイメージ、例えば「男は仕事、女は家庭」「男は理系、女は文系」などがジェンダー・ステレオタイプにあたります。

あるオリジナル絵本づくりの講習会で、小学生の子どもたちが好きな色の画用紙を選ぶ場面がありました。最初の女の子は緑色を選び、次の女の子は黄色を選びました。三

番目の女の子がピンクを選んだ時、その子の保護者が「やっぱり女の子だね。女の子らしい色を選べたね。よかったね」と声をかけました。その後、続く子どもたちは、女の子は赤やピンクの暖色系、男の子は青や青緑などの寒色系を神妙な表情で選ぶようになり、自分の気に入った色を選んでいいと伝えられても、その流れを変えることはできませんでした。大人からの働きかけが「ジェンダー」を意識した選択を強いる環境を生み出してしまったのです。

「男(女)だから」「男(女)なのに」という考えが頭に浮かんだ時、「そのこだわり、必要?」「それ、性別関係ないのでは?」と、一歩立ち止まって考えてみませんか。

日常生活に浸透している固定観念や思い込みにとらわれず、ひとりひとりの意思や選択を尊重することが、誰もが自分らしくいられる環境づくりに繋がるのです。

「いつまでも泣かないで、男の子でしょ」「痛い痛い」「ジェンダー・ステレオタイプ」とらわれない声掛けに変えてみませんか。